

## 1 ねらい

総合的な学習の時間「ワンダフルタイム」で次の4つの力を育もうと考えた。

- ・ 価値あるものを見出す感覚や、対象物に感動を覚え豊かに感じる心(感じる力)
- ・ 自由な発想や、友達との話し合い、支援を得て、自分の考えをまとめる力(創り出す力)
- ・ 対象へ進んでかかわり、仲間同士の違いやよさを認め高め合える、前向きに生きる姿勢(かかわる力)
- ・ 自ら問題を見つけ、自分のよさを生かしながら解決し、自己実現を図る力(実現する力)

## 2 実践の概要

### (1) ハスとの出会い

理科の自然たんけんの学習で生き物探しをしたところ、校内にある森から見えるハス田に興味を抱く子が多くいた。その後、社会科で学校の周りを探検した際にハス田に立ち寄ってみると、子どもたちはハスの種やはちすを見つけ、形の面白さに気付いたことで、ますますハスに惹かれていった。

もともと沼地であった学校周辺は、今でも稲田やハス田が多く存在している。そんな学区の特色を知り、愛着を持ついい機会でもあるので、総合的な学習の時間で、ハス・レンコンについて学ぶことになった。

### (2) ハスの観察とレンコン掘り体験

4つ節が繋がったどろのついたレンコンを見せると、子どもたちは「長い」「黒い」「きたない」と大興奮であった。切り分けて班で観察すると、進んで感触を確かめる子もいれば、恐る恐る触る子、触ることができない子もいた。しかし、何人かが「ねばねばするよ」「ざらざらだよ」と言うと、全員が感触を確かめるようになった。中には、泥がないとどうなのか洗って確かめようと言出す子もいた。こうして、子どもたちはレンコンにもハスにも積極的に触れるようになり、ハスの茎や葉、花、そしてレンコンについて五感を使って観察していった。レンコン掘りの際にも、腰まで泥だらけになりながら必死でレンコンを探り当てて掘った。



必死でレンコンを掘る子どもたち

～教師の支援・手だて～

- ・ 節が繋がったレンコンの実物を用意することで、驚きがあり、発見があり、もっと知りたいという意欲につながる。
- ・ 班に分かれての観察を行うことで、自分の発見を周りに広め、確かめながら更に理解を深めていくことができる。

### (3) ハス田に関する追究

このようにハスとかかわる中で、子供たちは、疑問や不思議に思ったことを自分の課題として追究していった。インターネットで調べたり、デジタルカメラを使って撮影したり、生産者の方に取材したりと積極的に追究を行った。調べたことは、模造紙にまとめたり、模型を作ったりして友達や学区の人たちに発表する予定である。

～教師の支援・手だて～

- ・ 似た課題を持った子同士で組を作ってまとめをすることで、友達との話し合いの機会や友達からの支援を得て、協力しながら進められる。

## 5 実践を振り返って

4月当初はレンコンやハスの葉に触れることを拒んでいた子どもも、それぞれで課題を持って観察を続けるうちに進んで触れられるようになってきた。そして、発見したことを友達に自慢げに伝える場面が多くみられた。また、友達の発見には素直に驚き、詳しく聞き出そうとしていた。多くの体験を通して、レンコンについて知りたいという思いが強くなり、それが友達との上手なかかわり合いを生んだと思う。ただ、現在取り組んでいるまとめの場面では、組を作ったがゆえに自分の考えが前面に出せずにいる子どももいるので、今後そういった子への支援をしていきたい。